

令和2年8月5日
外部専門家との意見交換会

畜産総合研究センター令和3年度新規予定課題意見交換結果

		外部専門家氏名	池口 厚男 神谷 裕子 菅野 勉 池田 忠雄
		試験研究機関長名	富田 耕太郎
研究課題名	つる植物で造成した生垣による畜舎周辺の臭気低減効果の検討	研究期間	令和3～5年度
外部専門家からの意見・指摘事項	<p>○苦情の多い地域の特徴（地形、気象、居住区との位置関係）で対策方法は変わってくるため、対象とする地域を明確にすると良い。</p> <p>○生垣など植物による対策は良く、植物はエアロゾルも付着させる。エアロゾルは病原体を運ぶため、エアロゾルを外に出さないことも重要である。臭気対策は、生産性の向上にはならないため、防疫面の効果も示せば導入が進むと考える。</p> <p>○実証試験では敷地の前後で測定するのではなく、敷地の近くだけでなく少し離れた所、例えば苦情が出ているところを1ヵ所選定し試験を行うと、その効果ははっきりと分かるのではないかと考える。</p> <p>○ヘデラヘリックスは植える密度で効果が大きく変わるため、事前によく検討した上で試験を行うと良い。</p> <p>①測定に関しては、官能試験が一番良いと考える。畜環研式ニオイセンサは強弱しか測れないため、使用する際は注意が必要である。</p> <p>②つる植物は、育成方法によりコストが変わると思うが、どのような育成方法を考えているのか。</p>		

《対応方針等》

- ①官能試験については、連続で長期間は難しいと考えるが取り入れてさせていただきたい。
- ②ヘデラヘリックスは高さ2m以上の苗を購入し、しばらく育て、糸に絡みついた状態になったものを設置する予定。実際に普及するにあたっては、つる植物の設置方法、育成方法も十分検討していく。

畜産総合研究センター令和3年度新規予定課題意見交換結果

		外部専門家氏名	池口 厚男 神谷 裕子 菅野 勉 池田 忠雄
		試験研究機関長名	富田 耕太郎
研究課題名	イネ WCS を基礎飼料とした乾乳期一群管理技術の検討	研究期間	令和3～5年度
外部専門家からの意見・指摘事項	<p>○コスト面での比較が出ていない。一番大事な点であるため、コストを出していただければと考える。</p> <p>①乾乳期一群管理を行う試験とのことだが、千葉県の乾乳期間の現状を聞かせていただきたい。60日より短いのか、それとも、60日に近いのか。</p> <p>②試験1の試験区について、添加剤給与区とイネ区が設定されているが、DCAD値は揃える試験設計で、従来の粗飼料主体型TMRプラスDCAD資材とイネWCSを用いた発酵TMRを置き換え、それで問題ない試験設計にしているのか。</p> <p>③乾乳期の環境は影響が大きく、暑熱の影響を受けるとの報告もある。試験は、温度を一定にしている所で行うのか、また、どのような時期に乾乳期とするのか、考えを聞かせていただきたい。</p> <p>④イネWCSを飼料として使うとのことだが、圃場ごとの飼料成分の変動を考慮しているか。</p>		

《対応方針等》

- ①乾乳管理については農家で違いがある。60日のところもあるが、乳量の多く出ている農家では45～50日など短くしているところもある。
- ②DCAD値については揃えていきたいと思っている。指摘のあったとおり、粗飼料主体型TMRとイネWCSを用いた発酵TMRで比較し、DCAD調整資材については、そこを補う形で使用する。
- ③当研究室の農場では温度が一定な場所はない。夏場を極力避け時期を揃えるようにしたいとは考えている。検討していく。
- ④入手したイネWCSの飼料分析を行う予定である。購入するところを固定し、なるべく同じ場所で生産されたものを使いたい。

畜産総合研究センター令和3年度新規予定課題意見交換結果

		外部専門家氏名	池口 厚男 神谷 裕子 菅野 勉 池田 忠雄
		試験研究機関長名	富田 耕太郎
研究課題名	気候変動に対応した安定的な飼料作物栽培技術の確立 (トウモロコシ・ソルガム混播栽培)		研究期間 令和3～5年度
外部専門家からの意見・指摘事項	<p>○研究の背景、これまでのデータ等の情報収集が十分なされており、非常に意義の高い課題であると考え。また、温暖化への対応においては、リスク分散が重要になってくる。混播栽培に関しては作期が課題であり、新しい作期が見出せると言うことで非常に意義が高いと考える。</p> <p>○混播用の新しい品種の活用において晩生品種を検討しているが、晩生品種を混播する場合の競合に関するデータがあまりないため、非常に興味がある。</p> <p>○台風被害が2年続けてあったため、特に倒伏性の強い品種を検討いただきたい。また、ソルガムも比較していただきたい。</p> <p>①試験2の晩限を検討する試験だが、目標とする2番刈の収量、或いは、1番刈と2番刈を合わせた年間収量の基準があると検討がしやすいと考えるが、目安はあるか。</p> <p>②トウモロコシ・ソルガム混播の場合、ソルガムが競合に強すぎトウモロコシが育たない場合は、ソルガムの播種量を少なくし混播の割合を調整した研究がある。もし、晩生品種を活用し問題があった場合は、これまでの例を参考にしていただけたらと考える。</p> <p>③刈取時のTDN含量の目標値はあるのか。</p>		

《対応方針等》

- ①収量の基準については、まだ設定していないため、設定して試験を行いたい。
- ②晩生品種の設定に当たっては、トウモロコシとの競合性を見ながら、播種量また台風の被害などを検討していきたい。
- ③飼料成分分析を行うため、その際にTDNを測定する。目標値についてはまだ設定していないため検討したい。

令和2年度外部専門家との意見交換会課題

		研究室	課 題 名	概 要
1	新規 予定 課題	企画 環境	つる植物で造成した生垣による畜舎周 辺の臭気低減効果の検討 (令和3～5年)	畜舎周辺の臭気低減を目的に、つる植物を利用した生垣による水平方向への臭気ならびに粉塵拡散防止効果について検討する。
2	新規 予定 課題	乳牛 肉牛	イネWCSを基礎飼料とした乾乳期一群管 理技術の検討 (令和3～5年)	乾乳期の飼養管理の省力化および周産期疾病の発症率低減を目的に、低カリウム粗飼料とされるイネ WCS を用いた乾乳期一群管理技術を検討する。
3	新規 予定 課題	嶺岡 乳研	気候変動に対応した安定的な飼料作物 栽培技術の確立（トウモロコシ・ソルガ ム混播栽培） (令和3～5年)	自給飼料の安定生産を図るため、本県の基幹飼料生産体系の一つであるトウモロコシ・ソルガム混播栽培について、近年の気温上昇に対応した播種時期および1 番刈時期を検討する。